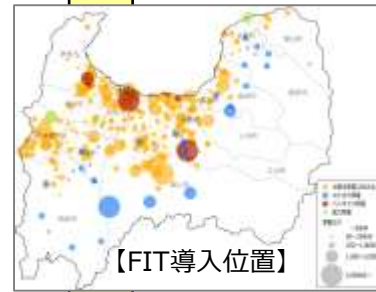


新ビジョンの構成 (案)


現行ビジョン		
目次	項目	主な記載内容
第1章	ビジョンの策定にあたって 1.ビジョン策定の背景 2.ビジョンの目的 3.計画期間	<ul style="list-style-type: none"> 策定の背景 目的（本県の強み・視点・総合計画との関連性、県内の発電電力量と消費電力量） 計画期間（～平成33（2021）年度）
第2章	日本のエネルギーの動向 1.日本のエネルギーの現状 2.国におけるエネルギー政策の動向	<ul style="list-style-type: none"> 国内エネルギー需給状況の概説 国内におけるエネルギー関連政策の動向
第3章	再生可能エネルギーの現状 1.再エネの定義と導入の意義 2.再エネの種類別の概要 3.富山県における再エネの賦存状況 4.富山県における再エネの導入状況	<ul style="list-style-type: none"> 再エネの定義（エネルギー供給構造高度化法に基づく7種類）と導入意義 再エネ種ごとの概要（しくみ・特徴・課題） 賦存量・利用可能量（小水力・太陽光・地熱・バイオマス・風力） 県内の導入実績（件数・規模）
第4章	エネルギーの効率的な活用の現状 1.富山県における省エネルギーの対策の状況と課題 2.革新的なエネルギー高度利用技術 3.次世代エネルギーシステムの導入	<ul style="list-style-type: none"> 消費量の推移、主体ごとの取組状況、省エネ対策の課題 高度利用の定義（CEV・コジェネ・燃料電池・HP）、概要（しくみ・特徴・課題）、県内の導入状況 スマートコミュニティに関する国の取組状況、県内の取組状況

新ビジョン (案)		
目次	項目	主な記載内容
第1章	ビジョン改定の趣旨 1.背景と目的 2.ビジョンの位置付け 3.計画期間	<ol style="list-style-type: none"> 1.ビジョン改定の背景と目的 2.県の政策における計画の位置付け 3.計画期間 <ul style="list-style-type: none"> ● 計画期間は2030年度まで
第2章	エネルギーを取り巻く動向 1.世界の潮流 2.日本のエネルギー動向 3.先進事例・技術	<ol style="list-style-type: none"> 1.世界の潮流や主要国の動向 <ul style="list-style-type: none"> ● 世界の潮流や主要国の動向などを追加 2.日本におけるエネルギー政策の最新状況と将来動向 <ul style="list-style-type: none"> ● 国内のエネルギー状況や政策動向等を更新 3.脱炭素社会構築や再エネ導入等に関する先進事例や再エネ等に関する先進技術などを紹介 <ul style="list-style-type: none"> ● 参考となる先進事例・技術等についても紹介
第3章	再生可能エネルギーの現状 1.再エネ導入状況・推移 2.現行ビジョンの評価・検証	<ol style="list-style-type: none"> 1.FIT公表資料、市町村アンケート等による再エネ導入状況・推移 <ul style="list-style-type: none"> ● 導入状況は地図化して可視化するとともに、市町村別に分析を行い、その特性を整理 ● 再エネの導入状況・推移を更新 2.現行ビジョンにおける施策・重点プロジェクト等の有効性の検証 <ul style="list-style-type: none"> ● 現行ビジョンの進捗状況と評価、検証結果を追加
第4章	エネルギー需給見通し 1.エネルギー需要量の見通し 2.再エネ供給量の見通し 3.2030年に向けたシナリオ	<ol style="list-style-type: none"> 1.現状を踏まえたBAU（現状趨勢）ケース※による2030年のエネルギー需要量を推計 ※今後、追加的な対策を見込まないまま推移した場合 <ul style="list-style-type: none"> ● 産業部門や家庭部門など、部門別に活動量を設定して推計 2.導入ポテンシャルと過去傾向を踏まえ、2030年の再エネ供給量を推計 <ul style="list-style-type: none"> ● REPOS（環境省の再エネ情報提供システム）等による再エネ種別毎のポテンシャルを推計 ● 再エネ導入状況とポテンシャルを重ね合わせたマップを作成し、導入可能性を検討、市町村別の状況を把握 ● その上で、これまでの再エネ導入傾向に企業アンケートによる再エネ導入量のプラス要素を加味し、2030年の再エネ供給量を予測 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 県内CO2排出量のうち、産業部門等の多くを占める特定事業所排出者※を中心に、再エネ導入に関するアンケート調査を実施 <ul style="list-style-type: none"> ※全ての事業所のエネルギー使用量合計が原油換算で1,500kl/年以上となる事業者 ✓ アンケートにおいては、再エネ設備の設置状況や導入予定等を調査 3.2050年カーボンニュートラルを見据えた、エネルギー需要量と再エネ導入量の2030年に向けたシナリオ <ul style="list-style-type: none"> ● 国の地球温暖化対策計画(改定中)の目標である「エネルギー起源CO2の2013年度比45%減の水準」を達成するためのバランスを推計



新ビジョンの構成（案）

現行ビジョン		
目次	項目	主な記載内容
第5章	取組の基本方向	<ul style="list-style-type: none"> 3施策（①再エネ導入促進によるエネルギー多様化、②エネルギーの効率的活用、③研究開発によるグリーンイノベーション）と各施策に基づく取組の方向性
第6章	具体的な取組みと重点プロジェクト 1.富山県の取組み 2.市町村、事業者、県民の取組み 3.重点プロジェクトの推進 4.30年後の富山県の姿 5.計画の推進体制	<ul style="list-style-type: none"> 第5章の3施策に基づく県の取組内容 市町村、事業者、県民ごとの取組み 6つの重点プロジェクト（各プロジェクト毎に目標を設定） 30年後に目指す本県の将来像 国・市町村との連携強化、県の推進体制、ビジョン見直し

新ビジョン（案）		
目次	項目	主な記載内容
第5章	再生可能エネルギー等の導入目標等 1.基本方向 2.数値目標 3.目指すべき姿（将来像）	<p>1.2030年度の再エネ等導入の基本方向</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本方向には、複数の観点からの柱を設定。 <p>基本方向（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> 脱炭素社会…再エネ導入、温室効果ガス排出削減 ➢クリーンエネルギーの活用 産業活性化…産業の振興 ➢新たなビジネスの創出や地域産業への還元 地域活性化…県民生活の充実、活発化 ➢雇用創出やエネルギーの地産地消 防災力強化…災害対応力の向上 ➢災害時でもエネルギー供給が確保 <p>2.2030年度の再生可能エネルギー等導入の数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 数値目標は、次の視点を踏まえ検討 <ul style="list-style-type: none"> 県民や事業者に分かりやすい指標・考え方であること 再エネ等や省エネを推進する施策の立案等に活用できること 進捗管理が容易かつ国の目標値との比較が可能となること <p>数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 再エネ導入量…エネルギー種別毎の導入目標量を設定（太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、バイオマス、その他の熱） エネルギー消費量の削減量…省エネによる部門別の削減量を設定 電力自給率…県内の電力消費量に占める再エネ発電量の割合 エネルギー自給率…県内のエネルギー消費量のうち再エネの占める割合 <p>3.目指すべき姿（2050年の将来像）を表現（キャッチコピーやイラスト）</p> <ul style="list-style-type: none"> 本県が目指すべき2050年の姿を、県民がイメージしやすい形で表現
	2050年の将来像 （イラストイメージ）	
第6章	アクションプランと重点プロジェクト 1.アクションプランと取組体系 2.重点プロジェクト 3.ビジョンマネジメント	<p>1.数値目標に到達するための施策をアクションプランとして位置付け、取組体系を整理</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域毎（市街地、周辺部、山間地等）の特性に応じた、目指すべき再エネ導入を検討し、取組みを設定 <p>2.再エネ導入を促進する重点プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> 先導的な取組み等について、実現性の検討等を踏まえ、重点プロジェクトとして設定 <p>3.ビジョン運営や進捗管理を行う推進体制</p> <ul style="list-style-type: none"> 進捗管理体制について記載